

今回出された成績について

4年生はまだ成績入力期間であり、レポート採点中なので、出していません。
すべてのレポートにコメントをつけて返していますが、もしかしたら必要ないのかも思ったりもします。
また、1年生の授業では自ら考えを進めていくことを大切にしているので、そのような姿勢が十分にみられるものを高評価としています。

成績に関して、シラバスにも記載しているように、地域調査、そのプレゼンテーション、レポート、課題提出状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価している。

- ・小学校では週の授業時間数が最も多い国語の授業の現場のイメージを、国語科以外学生にとしては、少なからず理解したと感じた。
- ・3年生ということもあるが、実際の授業展開が具体的にイメージされにくく、現場での授業をもっと意識させたい。
- ・現行学習指導要領では、「習得」と「活用」を大切にしているが、「教え定着させること」と「個性的に応用していくこと」の区別について、学生にもっと明確に意識させさせたい。
- ・自分の意見を作文で表現していく力が弱い。
- ・多くはないが、遅刻をしてきたり、持ち物を忘れてきたり、授業中眠ったりする学生が気になった。

4年生前期という教採や教育実習、就職活動などの多忙な時期であることから、授業出席を重んじ、平常点重視で評価しました。

M2 国語科研究CⅡ

評価のために指導案作成の課題を二度課した。おおむね二度目に向上が見られたが、向上が見られなかったり、逆に粗雑になったりする学生もいる。評価基準を今回以上に明確に示す必要があると思われる。

M2 国語科研究CⅣ

評価は二度の試験と課題図書レポートとによる。試験は出題範囲を限った到達度評価的なものであり、各人の努力が明確に反映されている。課題図書への取り組みの意欲の差をどう扱うかが今後の課題。

同じ流れで授業を進めてきたが、受け取る学生集団によって評価が異なってきたようだ。小学校社会科の大切な要素を中学年社会科に求めたが、その内容が地理的な見方を中核に持っていたので、高校時代に、ほとんどの学生が地理を選択してきていない現状から、こちらが説明にまわってしまったところがある。社会科選修・専攻の学生たちは、「中学か高校で歴史を教えたい」と言っている学生も多くいて、興味・関心を持たせるには、今ひとつだった。

初回に提示した最低限の課題を実行してくれれば、必ず合格できるという基準で判定をした。したがって最低限の基準をクリアできなかった数名の者については、保留とした。

上記のとおり学生一人ひとりの技量アップを最重点にしていなかったため、評価は難しかった。